

調査報告書

- 1 とき：2012年5月14日
- 2 行先：明道町菓子問屋・円頓寺商店街・四間道
- 3 参加者：わしの恵子・さはしあこ、政務活動補助員（浜田）
- 4 主な内容
 - ・ 陳情「なごや駄菓子屋横丁を大須に創立すること」に対しての意見や、現在の状況などを、明道町駄菓子問屋店主に聞き込み調査しました。
 - ・ 「大須で駄菓子屋は家賃が高く窃盗が多いので難しいと聞いている。駄菓子は利益が低い商売なので、家賃が無料かボランティアなら成り立つかもしれないが大須では潰れるだろう。私たちが年金をお店につぎ込んで営業している状態。コンビニが1件できると駄菓子屋が5件潰れると言われている。コンビニで売っていないくじ物でなんとかやっているが利益は出ない。バブルのころ流行った駄菓子屋も今は潰れて無くなり、東京の問屋も錦糸町は全滅、日暮里は1件になってしまった。」と、駄菓子業界の厳しさを語っていました。
 - ・ 「世の中がおかしくなって人間もおかしくなった。最近では業者も万引きする。」という発言もありました。
 - ・ 問屋数も減り、今にも壊れそうな継ぎはぎトタンの店で営業している店もあります。円頓寺商店街も昔の活気はありません。
 - ・ 四間道の桜通り側はおしゃれなお店が何件かできていました。
 - ・ 新しい観光名所も必要だが、堀川⇒四間道⇒円頓寺⇒明道町など、今ある所の活性化も必要だ。

